

会報 (第12号)

目 次

特集	2
アルゼンチンは新しい時代に入った	
ワールド・カップ日本開催を支持	
登り坂にあるアルゼンチン	
アルゼンチン政治・経済速報	4
政治・経済の動き	
日ア経済関係	
中国、韓国もアルゼンチンの土地を買収	
アルゼンチン事情	7
タンゴ物語 (2) 一生い立ち	
RAE (アルゼンチン海外放送) を	
ご存じですか?	
現地だより	10
G.ソロス 最大の農場主に	
車検制度 いよいよ実施	
マドンナの映画「エビータ」に反対	
本場でタンゴ・ダンス教室	
文化行事	11
ペヘレイ・ツアー、P.フェルマン	
演奏会、タンゴ・ディナー・ショウ	
お知らせ	12
人事往来	14



法社
人団

日本アルゼンチン協会

会報第十二号

一九九六年四月八日発行

編 発

集 行

人 人

千代田区内

日比谷ダイビル一七〇五号室

(三五九五) 三四六八四番

FAX 電話 三九三二番

渡 野 村 秀 透 治

千代田区内

日比谷ダイビル一七〇五号室

(三五九五) 三四六八四番

秀 透 治



日本を支持 会長と外相 P. 3



日アの架け橋 荒船大使 (左) とサンチス大使 (右) P. 12

アルゼンチンは新しい時代に入った

斎藤会長は2月22日、訪日中のディ・テラ外相を表敬訪問され、つぎのような会談を通じ友好を深められた。

会長 日本人はアルゼンチンに大変好感を持っている。日ロ戦争のときアルゼンチンが2隻の軍艦を日本に譲ってくれたことを未だに記憶している。資源のない日本のとてアルゼンチンは憧れの国だ。しかし、過去10年以上アルゼンチンの政治経済の不安定、マルビーナス戦争、ハイパーインフレなどにより、通商関係は事実上、途絶えたも同然だった。メヌム政権になり正常化がすすみ、大変喜ばしいことだ。

外相 1989年以来、アルゼンチンは新しい時代に入った。過去5年間のインフレ率は6%、GDPはOECD25カ国のうち16位に相当する程回復した。今後5年間でさらに、正常化が進むだろう。トヨタが企業進出したことは大変力強い。100周年を契機に両国の関係をさらに強固なものにしたい。

会長 昨年はブラジルとの修交100周年の行事があり、多くの行事があった。これは今も続いており、わが社の斎藤会長が近く訪伯する。アルゼンチンからは、タンゴも含め大いに文化的な行事を日本で展開されるよう期待する。

外相 1998年までの2年間は短期間なので急いで準備に取り掛かる必要がある。アルゼンチンとしては、文化、スポーツ面と技術交流をこの機会に深めていきたい。この技術交流は一過性のものなく、その後も継続できるものを取り上げたい。そのため何が重要で、実現できるか調査をすすめたい。

会長 アルゼンチンの経済情勢がよくなかったことは、これらの行事を進めるための良い環境が整いつつあることで、喜ばしい。

外相 100周年の行事を通じて、両国の関係をより深めていきたい。

会長 全くその通り。日ア関係は新しい時代に入った。その意味で100周年の行事はより実りあるものにしたい。

ワールド・カップ日本開催を支持

アルゼンチンが世界にさきがけて、日本でのワールド・カップ開催支持を正式に表明した。ときあたかも日本と韓国は自国への誘致合戦で異常な熱気に包まれていただけに、テレビ、新聞が直ちに取り上げた。

「アルゼンチンの好意を全国的に受けとめたのは、1903年の日ロ開戦前夜以来の快挙だ」と日進、春日の最新鋭艦（当時）をアルゼンチンから譲り受けた史実に照らし、このようなコメントをするむきもあった。

2月22日による、飯倉公館での日本・アルゼンチン外相会談の席上、池田外相がワールド・カップの日本開催へアルゼンチンの支持を要請、ディ・テラ外相が正式に支持

を表明した。

6月1日の投票には、南米はアルゼンチン、ブラジル、エクアドルの3票が同步調をとることとなっており、事実上日本は3票をまず獲得したことになった。

翌23日、アルゼンチン大使公邸でディ・テラ外相のレセプションが催された。アルゼンチン関係者が多数招待され、当協会からも斎藤会長、近藤謙雄副会長が出席した。長野オリンピック冬季競技大会組織委員長でもある斎藤会長は、早速ディ・テラ外相と握手し、開催支持への感謝を述べた。外相は「最終的には、南米サッカー連盟で決まるものだが、まず問題ないでしょう」と静かに応答した。(写真)

3月4日、マルデルプラタからの共同電は、南米連盟選出の国際サッカー連盟(FIFA)理事3名が日本に投票することになったと伝えてきた。

登り坂にあるアルゼンチン

当協会とラテン・アメリカ協会共催による小宅康夫・前駐アルゼンチン大使の「アルゼンチン情勢」についての講演会(既報第11号)が、2月14日開催された。

前大使は、旧来のアルゼンチンへの認識を改め、「登り坂の国」「メルコ・スール付きのアルゼンチン」を直視し、日ア関係のパイプをさらに太いものにする必要を強調された。

要旨はつぎの通り。

日本ではブラジルの肩越しにアルゼンチンを見る傾向がある。これからは改めなければならない。ブラジルと比較して①GDPは半分以上、人口は四分の一、従って一人当たりのGDPはブラジルの3倍②国として纏まり、人種問題がない③中産階級層が厚い④外国人に対する疎外が少ない点が指摘される。

政治情勢では、民生が安定しつつある。昨年のメネム大統領再選のプロセスをみるとペロン党が新しい政党に生まれ変わったと云えよう。市場原理の導入、草の根を尊重し、我々の民主制社会に近くなった。経済面では、カバーロ効果が引き続き持続されよう。貿易収支もメルコスールの効果が表れ、改善の方向へ。対外債務の問題が常に影を落としているが、カバーロ経済相の手腕が期待される。

新生アルゼンチンは、登り坂の国だ。しかし、この国への投資は、米、カナダが65%、欧州が30%、日本は僅少。北米、欧州各国のアルゼンチンへの熱い投資意欲に比し、日本はかなり出遅れている。わが国の対外投資もアジア一辺倒ではなく、新しいアルゼンチンなどに志向する必要があろう。

昨年1月に発行したメルコスールは、ほぼ順調に滑り出している。いまや地域統合は世界の流れであり、アルゼンチンもメルコスールをベースに経済運営を進めようとしている。これからは、「メルコスール付きのアルゼンチン」と捉えるべきだ。

日ア関係は新しい時代に入っている。従来とは異なった視野で、もっとパイプを太くする必要がある。再来年の修交100周年はその好機と云えよう。

アルゼンチン政治・経済速報

◎政治・経済

東銀リサーチ・インターナショナル
研究理事 小林晋一郎

○民間の経済研究所FIELによれば1995年の工業生産は前年比5.0%の低下となった。
94～95年の四半期毎の工業生産の前年同期比の増減は次の通り。

94年	I	+ 9.7%	II	+ 4.4%	III	+ 3.5%	IV	+ 5.0%
95年	I	+ 3.8%	II	▲5.2%	III	▲8.5%	IV	▲10.7%

FIELは今年第二・四半期より景気は回復に向かうと予想している。

○2月政府はIMFとの間で金額10億ドル(期間21ヶ月)のスタンダードバイ・クレジットにつき基本的合意に達した。マクロ経済の目標はGDP成長率5%、財政赤字25億ドルであり付加価値税の税率は引き下げない事とされた。

○1995年12月の月間消費者物価上昇率は0.1%で年間の上昇率は1.6%となった。経済史上51年間で最低の物価上昇率となり先進国並となった。

○2月アルゼンチン政府は10億ドルのグローバル債の発行を行った。期間5年で金利は410BP(基準金利に4.10%を上乗せしたもの)。政府は年間50億ドルの対外借入を予定している。

○1995年の自動車生産の実績が公表された。国内の不況を反映し国内販売が落ち込み、その反面ブラジルを中心に輸出が増加した。
実績は次の通り。(カッコ内は1994年)

生 産	285,272	(408,777)
国内販売	224,997	(360,721)
輸 出	52,663	(38,657)

自動車の輸入はクォータ制であり95年は53,000台のクォータであったが輸入実績は15,500台にとどまった。96年の生産予想台数は40万台である。

○1992年以来赤字であった貿易収支は95年に黒字に転換した。貿易収支の状況は次の通り。(単位10億ドル)

▲2.64(1992)、▲3.7(1993)、▲5.75(1994)、+0.93(1995)

○カバロ経済大臣は1991年1月に経済大臣に就任して以来、5年以上経過した。今世紀の経済大臣乃至大蔵大臣はカバロ大臣を含め77人にのぼるが、カバロ大臣より長く大臣のポストについていたのはペロン政権時代のセレイホ(1946年10月～52年10月)とイルゴージェン政権時代のサラベリー(1916年10月～22年10月)の2大臣のみである。

兌換法に基づく経済安定化政策の成功とカバロ大臣に対するメネム大統領の信認により長期間の経済大臣を誕生させた。

○2月メネム大統領はフランスを訪問した。昨年11月のメネム大統領訪米の際にはカバロ経済大臣を同行させなかったところ、マーケットでメネム大統領とカバロ経済大臣の対立が噂された経験から今回のフランス訪問にはカバロ大臣を同行させた。フランスは積極的に電話、電力、上水道の民営化関連投資を行っている。

○一時はメネム大統領のスピーチ・ライターを務めたことのある元内務大臣グスタボ・ベリスはペロン党内のメネム路線に反対し1月ペロン党を離脱し、新党“Nueva Dirigencia”を結党した。又、2月野党FREPASOではホセ・ボルドン議員とカルロス・アルバレス議員の対立からボルドンがFREPASOを離党した。これら一連の政治家の動きは96年6月に予定されているブエノスアイレス市長選挙に向けて候補者決定をめぐる政治的対立によるものである。

◎日ア経済関係

大来財団日本評議委員会事務局長
(財)国際開発センター主任研究員
齊木茂治

○JICA ア国第2次経済開発調査(通称:大来Ⅱ調査)

1994年7月に開始された本調査もいよいよ最終段階に入り、本年3月に〈東アジアとの経済交流拡大に向けて:アルゼンチン経済の新たなる飛躍〉と題する最終レポート原稿が完成、3月17-23日の間、(財)国際開発センター河合会長、JICA基礎調査部松田課長以下総勢10名よりなる調査団が訪アし、ア国政府経済省貿易投資

庁マジョラール次官以下政府関係者にレポート内容を説明、意見交換を行った結果、ア国側の合意と大いなる評価を得た。

更に、カバーロ経済大臣より河合会長に対し、“本レポートは時宜にかなった大変有益なもの”との謝意表明があるとともに“今後ア国官民の関係者がレポート内容を熟知し提言内容が有効に活用されることが重要”との認識のもと、(非公式ながらも)調査団に対しセミナー開催や提言内容を実行に移すために、日本の専門家の協力等フォローアップへの口頭協力要請がなされた。

引き続き、本年6月に(今回の意見交換を基に)JICAよりア国政府に最終レポートが提出され、ブエノスアイレスにてア国産官学の関係者約500名を招きア国経済省/JICA共催による一大セミナーを開催予定。

尚、本レポートでは日本をはじめとする東アジアへの輸出拡大及び同地域からの投資増大を目指し下記の4課題にかかる調査結果報告並びに提言を行っている。

課題1：東アジアへの輸出及び東アジアからの投資拡大のための制度的支援

課題2：東アジア市場への輸出拡大のための競争力強化

課題3：中小企業の強化育成

課題4：産業振興と輸出拡大のための運輸体系整備

○大来財団の活動

- 1) 大来財団はア国の経済発展に資する輸出促進型プロジェクト創出のため、(株)日本国際協力機構(JAIDO)、ア国投資財団と協同でプロジェクト調査基金を設立すべく昨年11月3者協定を締結、これに基づき本年3月4~8日JAIDO牧村事業部部長が訪アし3者間で基金拠出手続きを終えると共に、事前調査(PRE-F/S)対象案件候補につき協議結果、先ずア国側にて農産加工品、林業・パルプ等を主体にリストアップの上JAIDOに提出のこととなった。
- 2) 大来財団は上記JICA大来II調査にてア国側民間セクターのコーディネーター役を務めおるも、最終レポート内容をア国民間セクターに十分知らしめるためにまずは6月にブエノスアイレスにて開催予定のセミナーに際し経済省/JICAに全面協力をを行う予定。

◎中国、韓国もアルゼンチンの土地を買収

金融王ジョージ・ソロスがアルゼンチンの土地を買い漁っているとの、情報(本号P.10ご参照)は、わが国産業界にもかなりの衝撃を与えている。

さる2月開催された小宅前駐アルゼンチン大使の帰朝講演会でも、

「ジョージ・ソロスのみならず中国、韓国の企業も積極的にアルゼンチンの土地を買収している」とコメントされた。

ソロスをはじめ各国の急激な展開は、「21世紀には確実に世界的な食料危機がやってくる」との警告(ワールド・ウォッチ研究所レスター・R・ブラウン)に備えての投資と無縁ではなさそうだ。

アルゼンチンの通貨情勢の行方は？――

A.Watson 米国務次官補との一問一答

- Q アルゼンチンの金融情勢は、現在小康を保っているが、国務省としてどのような見通しを持っているか？
- A このほど推移すると思う。ただし、それには条件がある。米・日をはじめ、各先進国が国際的にアルゼンチンを支え、力づけて (encourage) いけばの場合だ。そしてそれは今後とも達成されるだろう。
- 例えれば、昨年、メキシコで起きたテキーラ・ショック。米政府は直ちに国内、国外に呼びかけ、日本の協力も得て数カ月で立ち直らせた。
- Q メキシコは米国の隣国であり、米国との利害が余りにも密接なため、あのような見事な処置をとったと了解する。しかし、アルゼンチンは遙かかなたの国だ。米国はアルゼンチンに通貨危機が起った場合、メキシコと同じような行動をとるか。
- A アルゼンチンは日本からみれば遠いかもしれないが、米国からは近い。金融通貨問題については、米国はラテン・アメリカは一つと捉えている。

(2月21日ラテン・アメリカ協会セミナーのあと、単独インタビューより)

アルゼンチン事情

津 田 正 夫

◎タンゴ物語（2）

タンゴの歴史一生い立ち

普通現在のタンゴの曲は、キューバ辺りで流行していた「ハバネラ」、アフリカのアンゴラから来た「ミロンガ」そしてこれもアンゴラの「カンドンベ」、それにアンゴラから来た黒人が使う太鼓の「タン・タン」というリズムの集大成の発達したものであるといわれている。それが「タンゴ」と名付けられたのは、黒人がカンドンベを踊るとき、必ず誰かが最初に「オエ・エ」とかけ声をかけ、それに応じて誰かが「ヤン・パン・ベエ」（これが訛ってカンドンベという言葉になった）と相槌を打ち、それと共に一同が「トカ・タンゴ」または「トカ・タング」（タンゴを鳴らせ）と云い、それで太鼓を鳴らして人々が行列を作り、前の人の肩や腰に後のものが両手を添え、すり足で踊ったので、そこからカンドンベの踊りがタンゴという音楽で踊るようになったと伝えられている。

従ってタンゴはカンドンベの踊りの曲だが、それは何時頃からラ・プラタ地方、主

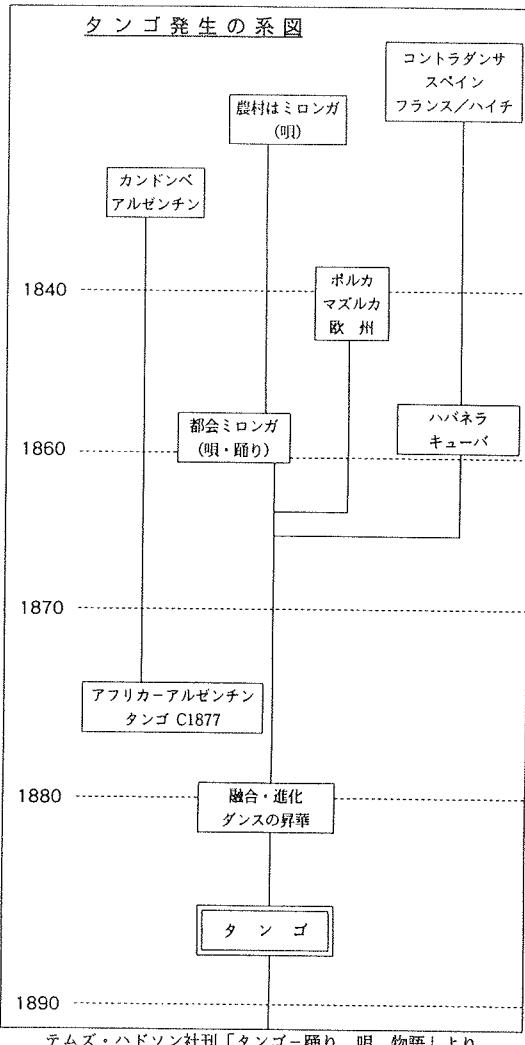
として今のブエノスアイレス、殊にボカを中心とした港町にきたかというと、それはこのブエノスアイレスにアンゴラの黒人が輸入された1608年以降である。当時この地方に流行病が発生し、殊に労働者の死者が多く、従って市内の労働力が不足したので、当時の市議会は英國商人の勧めにより、アフリカのアンゴラから多数の黒人奴隸を輸入した。その輸送に当たったのは英國の船会社だった。一旦輸入された奴隸は、現在レティロ広場となっているところの奴隸市場で売買され、それぞれのひとり先（主として家庭労働）に落ち着いた。女性の黒人は台所の召使となつたが、中には乳母になつたものもいた。殊にその黒人の二世・三世で良家の家庭で乳母になつたものは多く、私の友人で上流階級出の人で、黒人の乳母で育つた人は随分大勢いた。これなども、アルゼンチン人が人種的偏見を持たない一つの原因かもしれない。

このカンドンベが最も盛んだったのは1530、40年代、即ち暴君といわれたロサス将軍の統治時代だった。彼自身幼い頃から父の家を出て、野のガウチョや黒人とともに生活したので、時には彼も仲間に交じってカンドンベに夢中になつたのであろう。

カンドンベからラ・ダンサへ

その後になってカリブ海のアンチル諸島から「ラ・ダンサ」という踊りの形式が入ってきた。これは男女がお互い身体をくっつけて踊るもので、これはラ・プラタ地方で大歓迎を受け、以来カンドンベはすたれ、わずかにコンガとして残る運命になった。

ところが、この「ラ・ダンサ」の移入と共に、新しい踊りの形式が入ってきた。「ラ・ダンサ」は男女が相擁して踊るものだが、軽妙な動作をもつ黒人はその踊りに



いろいろの動作を工夫した。その一つは「ケブラーダ」といい、踊りのコンパスをケブラール（曲げる）するもの、即ち今まで流れるように音楽に合わせて踊っていた二人が、急に、パッと向きを変えたり、一瞬停止する踊り方、今一つは「コルテ」といって、足を素早く交差して踊りの行進・リズムをコルタール（切る）する技巧が生まれ、踊りが一層複雑に軽妙になった。何しろ身のこなしの柔らかい黒人だから、いろいろと踊りの型のヴァリエーションを案出して、その間に百数十年を経過した。

そういうタンゴは、1865年頃から、ボカの「ベリングンデン」と呼ばれる、怪しきな家から、聞こえ始めたのだった。それまでは、こんな踊りは黒人が祭りの日や、日曜日に街の空地や時には路上で、人団みの中で踊っていたが、この頃から土地の労働者などが、黒人の踊りを見よう見ま似で踊り始めた。男の樂士は白い麦藁帽、赤い上衣、白いズボンといういでたちで演奏し、そこにいる女はこぞってベレー帽をかぶり、赤い半巾をくびに巻き赤いブルース、短いスカートにボタン付きの革の長靴を穿いて男の踊りの相手をしていた。これが1867年頃の風景、わが国は明治維新の前夜であった。(つづく)

「ボカ共和国見聞記－知られざるアルゼンチン」より
(筆者(故人)は元駐アルゼンチン大使)

◎「RAE」(アルゼンチン海外放送)をご存じですか?

NEC ロジスティクス(株)
取締役 福島 穆

「RAE」とは Radiodifusion Argentina al Exterior の略。アルゼンチン通信省が管轄する海外向け放送であります。1964年(昭和39年)以来日本語による放送を行っております。現在では日本時間の月曜日から金曜日にかけて夜7時より8時の一時間が割り当てられております。アナウンサーはアルゼンチンに滞在なさった方ならご存知の「らぶらた報知」編集長の高木一臣さん。同氏は三重県のご出身、なんでも1951年(昭和26年)にアルゼンチンに移住なさったとのことです。独特のアクセントで放送なさって居られます。放送内容はニュース、時の話題、シリーズ「知られざるアルゼンチン」など多岐にわたり、なかにアルゼンチンのタンゴやフォルクローレがあり楽しめてくれます。ただ日本との距離が遠いため受信状況は良好とはいえませんが室外アンテナをよく張りめぐらして何回も試みることが肝心であります。また短波放送はその日の状況で受信状況が違いますので辛抱強く挑戦して下さい。RAEの放送時間と周波数は次の通りです。

*放送時間：19:00 - 20:00 (日本時間、月 - 金) * 周波数: JJ710 (kHz)

現 地 便 り

◎G.ソロス、アルゼンチン最大の農場主に

さきほど来日し、多くの話題をふりまいた世界的金融王ジョージ・ソロスは、アルゼンチンの土地を買いあさり、いまや最大の農場主なっている。94年10月、ソロスは土地所有会社CRESUDを6400万ドルで買収、同社所有の農場や牧場は2万ヘクタールから35万ヘクタールに膨張、今年は400万ドルの利潤が予想されている。

都市部の不動産も積極的に買収をすすめ、メルカード・アバースト、レティーロ界隈、プエルト・マデーロ地区さらには民間への払下が待たれているアエロ・パルケ、カンポ・デ・マージョの軍施設にも及ぶ勢いである。 (らぶらた報知)

◎車検制度 5月1日より実施

登録されている自動車は5月1日より「車検認定書」(REVISION TECNICA OBLIGATORIO)を車のフロント・ガラスに張りつけることが義務づけられる。

1993年以降の車は、登録のあと3年間は車検をとる必要はないが、その証明印紙(車を購入した代理店で5ペソで売っている)を添付しなければならない。3年以上の中古車は2年に1回、7年以上の中古車は毎年1度車検を受けることになるが、正式に認可された修理工場で行い費用は30~40ペソ。 (らぶらた報知より)

◎マドンナの映画「エビータ」に反対

英国の映画監督アラン・パークーがエビータことエバ・ペロン大統領夫人をテーマにした映画を撮影するため、ロンドンからブエノス・アイレスに到着、撮影準備に取り掛かったが、この撮影にア国民衆から猛烈に反対の声が上がった。

エビータの役をスーパー・セクシーな歌手マドンナが演ずるからである。エビータと云えばア国労働者の母として貧しい労働者層から神の如く敬愛された女性である。その女性の役をマドンナが演じようとしているからア国労働者層にすれば女神に対する冒涜ということになりかねない。

これに対しマドンナは「私にとってインスピレーションの源泉であった人物(エビータを指す)の記憶を汚すようなことは決してしない。最大の敬意を以てエバ・ペロン夫人の役を演じようとしている」と述べて、ア国に取って「好ましからざる人物」と云うイメージを取り除くことに懸命である。

マドンナのセクシー歌手としてのエロチズムと彼女の約束するディグニティーとの調和がどのように実現されるか注目されている。 (らぶらた報知より)

(註: 映画ロケの一回は55日間滞在し、3月15日離アした)

◎アルゼンチン・タンゴ・ダンス教室

生徒をグループ別にして、本場アルゼンチン・タンゴ・ダンスを教授していますので、ご関心の向きは下記へご照会下さい。

マエストロ：エフライン・オルドニエス (EFRAIN ORDONEZ)

マエストラ：古瀬陽子 (YOKO FURUSE)

住所：BLANCO ENCALADA 2256, BUENOS AIRES, ARGENTINA

電話：781-2231 (会報NIKKI ARGENTINOより)

◎ポリー・フェルマン（駐日アルゼンチン大使夫人）のピアノ・リサイタル

前号でご案内しましたサンチス大使夫人のチャリティー・ピアノ・リサイタルが3月19日津田ホールに於て、日比バガサの会主催で開催され、満員の盛況で、純益金はフィリピンのストリート・チルドレンのための教育資金として寄付された。当協会より花籠を寄贈しました。

文化行事のお知らせ

◎ペヘレイ・ツアー (☞ ペヘレイ (Pejerrey) はアルゼンチン原産のサヨリに似た高級魚。詳細は既報(第8号)ご参照)

日 時：4月20日(土)

集合場所：JR高崎線 熊谷駅南口階段下 11:45

日 程：11:50 熊谷駅 発 (借り上げバス 定員50名)

12:05 懇安田 ペヘレイ養殖場 着

見学後、ペヘレイの寿司、天ぷら、ワイン、ブッフェ
タンゴ(高野太郎氏とバンドネオン奏者)演奏を予定。

15:35 同養殖場 発 (借り上げバス)

15:50 熊谷駅 着(解散)

会 費：会員3,000円、非会員4,500円

(昼食、飲み物、バス代、税込、当日ペヘレイ養殖場で申し受けます)

申し込み：電話またはFAXで当協会事務局まで。

締切日：4月15日(月)

JR高崎線 時刻表次の通り：

下り 列車番号859 上り 列車番号944

上野 発 10:33 熊谷 発 16:10 (なお、片道電車賃

赤羽 発 10:43 赤羽 発 17:01 は、1,090円)

熊谷 着 11:41 上野 着 17:12

今回のペヘレイ養殖場の見学等は、当協会の監事である安田直弘代表取締役のご好意によるものです。

◎薰風のタンゴ・ディナー・ショー

日 時：5月24日（金） 19:00 ディナー、 20:00 ショー・タイム

会 場：横浜スポーツマン・クラブ「ル・パビヨン」

交 通：JR横須賀線 東戸塚駅西口 下車

相鉄バス（5～10分）2番ポールより横浜カントリー行き乗車、

スポーツマン・クラブで下車

タクシー（5分）東戸塚駅東口下車

演 奏：EL DUO DE ORO（バンドネオン岡本 昭、ピアノ森はじめ）

歌 みなみ（当協会員）

踊 り：棚田 晃吉 & 典子

会 費：12,000円（食事、飲み物、税サービス含む）

連絡先：オフィス・小原（045-716-2612）

ル・パビヨン（045-351-1555伊藤）

お 知 ら せ

◎新、旧駐アルゼンチン両大使歓送迎パーティ

1月24日夕、霞が関三井クラブにおいて小宅康夫前大使と荒船清彦新大使の歓送迎会パーティを当協会が主催した。斎藤会長、近藤鎮雄副会長ほか、理事及び法人会員、個人正会員、佐藤外務省中南米局長ほかスタッフ、サンチス。ア国大使夫妻ほか大使館員など60数名が出席し盛会であった。（写真）

◎会長NIKKEI ARGENTINOの頒布

今般、セントロ日系アルヘンティノが毎日発行しているNIKKEI ARGENTINO（スペイン語版）を日本国内で頒布することになりました。

ご関心の向きは、下記住所にお問い合わせの上、郵便切手80円を同封してお申し込み下さい。

〒252 神奈川県藤沢市湘南台1-20-1-203

電話：0466-46-5949 新垣 八重子

◎総会の開催について

社団法人「日本アルゼンチン協会」第40回総会は来る5月22日（水）午後2時半より、当協会の日比谷ダイビル（4階会議室）で開催予定です。（法人会員及び個人正会員には別途通知申し上げます。）

◎会費の納入について

平成8年度分の会費（法人会費、個人正会員費及び賛助会員費）につきまして、夫々請求書を会員各位あてご送付致しますので、何卒宜しく納入お願ひ申し上げます。

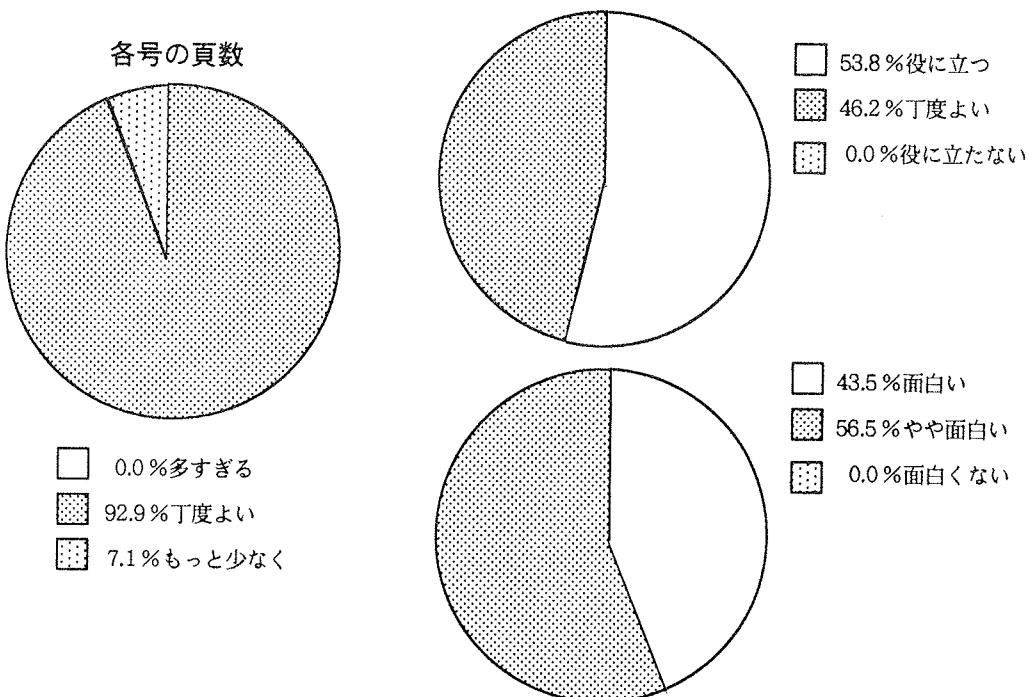
◎「会報」についてのアンケート集計結果

先般、当協会発行の「会報」についての下記設問に対するアンケートにご協力頂いた結果は次の通りでした。（回収率 34 %）

1. 各号の頁数 (15頁前後)	(1) 多すぎる	0 (2)	丁度よい	26 (3)	もっと少なく	2
2. 内容 A 総括	(1) 役に立つ	14 (2)	丁度よい	12 (3)	役に立たない	0
	(1) 面白い	10 (2)	やや面白い	13 (3)	面白くない	0
B 特別記事	(1) よい	17 (2)	もっと多く	9 (3)	不要	0
政治・経済速報	(1) "	21 (2)	"	6 (3)	"	1
文化・歴史物語	(1) "	20 (2)	"	7 (3)	"	0
現地便り	(1) "	19 (2)	"	8 (3)	"	0
文化行事お知らせ	(1) "	22 (2)	"	4 (3)	"	0
人事往来	(1) "	24 (2)	"	1 (3)	"	2

その他ご意見としては、現地便り（駐在員等の寄稿）、文化、芸術、音楽等の記事に関するご要望が多数あり、ご協力有り難うございました。今後とも上記結果をふまえ、なお一層会員皆様にご満足頂ける会報の編集に努力致します。

総合評価



人 事 往 来

(平成8年1月～3月)

1. 来 日

マガリーニョス 経済省鉱工業長官 2月7日～15日

(中堅指導者招聘)

トロセロ 経済省産業局長

カルデロン 国立交響楽団音楽監督 2月17日～23日

ディ・テラ 外相（外務省賓客） 2月20日～25日

(随員) ゴンサレス 外務省政務総局長

チャラディア 外務省経済交渉局長

メロ・フェレール 外務省アジア・大洋州局長

ダネリ 外相秘書官

サンチエス 経済省貿易投資長官 2月26日～3月1日

(エマージング・エコノミーズ・セミナー)

ブラウン・ブエノス・アイレス州生産部長 3月11日～16日

(国際食料展示会：於 幕張)

2. 赴 任

荒船大使着任 1月27日

3. 訃 報

伊神 修 公使(47才)は、3月26日在スペイン日本大使館に勤務中ご逝去。

(アルゼンチン在勤 1992年3月～95年4月)

4. 当協会監事の交替(4月1日付)

新任 塩見憲一 東京三菱銀行中南米部長(人事移動のため)

前任 沢木忠男 東京銀行中南米部長

あとがき

○ 次号(13号)は7月下旬発行予定です。

ご存じですか？現地新聞閲覧

当協会事務所（日比谷ダイビル17F）にはいま、つぎの現地2紙が備え付けられ、皆さんへの閲覧に供しています。

らぶらた報知（邦語、週3刊、らぶらた報知社）

Nikkei Argentino（西語、月刊、セントロ日系）

ご興味のある方は、当事務局へどうぞ。

事務局からのお願い

「個人会員および個人賛助会員」募集

当協会の構成員は「法人」を主体としていますが、このほか「個人正会員」（議決権有り）の制度があり、現在30数人がメンバーに登録されています。さらに文化活動への参加を主眼とした「個人賛助会員」制度（議決権なし）があり、広く当協会へのご支援をお願いしています。

個人会員制度の概要は次のとおりです。

- | | |
|---|-------------|
| ①☆正会員（定款上総会の構成員。議決権有り） | 年会費 ￥10,000 |
| ☆賛助会員（定款上総会には非構成員。議決権なし。
その他は原則として正会員に準ずる） | 年会費 ￥5,000 |
| ② 会報：当協会の発行する「会報」をお届け（無料）することにより、日ア間の最新情報を文化、通商、経済などに亘って提供します。 | |
| ③ 文化活動ないし演奏会などの催物のご案内、割引案内を行い、ご希望の分野にご参加（実費徴収）いただきます。 | |
| ④定例総会のほか「親睦会」を開催し会員相互および在京大使館との交流を計ります。
アルゼンチンに関心の深いご友人、関係先の方々を、是非ともご勧誘ください。事務局にご一報あれば加入申込書を、ご本人あて郵送いたします。 | |

投稿歓迎

「会報」についてのご感想、ご意見のほか会員の皆様からの消息、近況などの投稿（内容自由、ただしアルゼンチンに関連したもの）をお待ちしています。紙面の都合で止むなく、一部手直しさせて頂く場合がありますので、予めお含みください。